

『広瀬川流れる岸辺…

（星間船一作詞「青葉城恋唄」）と歌われる杜の都仙台市は 東北地方最大の拠点都市として発展しつつある。昭和60年国勢調査では72万余りの人口を数え 実に宮城県総人口の約3分の1を占めている。通説では仙台的地名は 伊達政宗が築城した土地川内（かわうち）を音読みしたことによる。

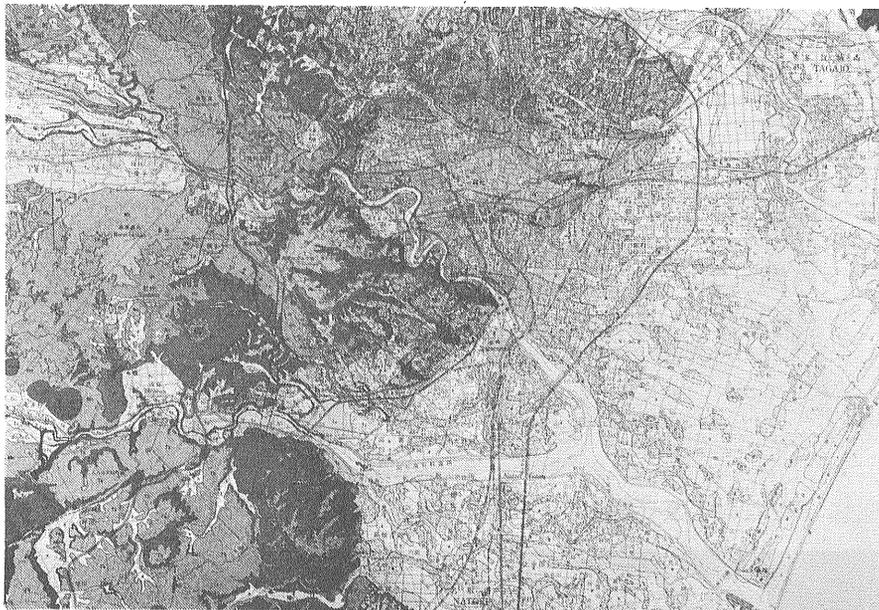
さて「仙台」図幅地域は仙台市の行政域の大部分と周辺市町のそれぞれ一部を含んでいる。本地域には中部三畳系の利府層を基盤として 新第三系・第四系が分布している。このうちの新第三系は東北日本太平洋側の模式層序のひとつで古くから調査され 多くの研究論文がある。本図幅の研究報告書にはこれら研究論文が多数引用又は紹介されており 巻末の文献欄は計12ページに及んでいる。

新第三系のうち新統は松島湾層群・名取層群・志田層群・秋保層群に 鮮新統は仙台層群及び留ヶ谷層に大別され それぞれの地層について層序関係・地質年代及び地層対比などが詳しく述べられている。またこれまでやや混乱していた地層定義や地層名もできるだけ整理されている。一方 本地域が地震予知特定観測地域の一面を占めること 1978年宮城県沖地震の際には大きな被害を受けたことなどから 研究報告書には長町-利府線ほかの活構造及び過去の被害地震の記録が述べられている。

5万分の1地質図幅「仙台」は かつて東北大学地質学古生物学教室によりまとめられた“The geology of Sendai and its environs” (HANZAWA et al., 1953) 以来約30年ぶりの本地域に関する地質研究の集大成である。同時に本図幅の刊行をもって 既に公表されている金華山・石巻・若柳・涌谷・松島・塩竈・古川・吉岡・岩沼の各地質図幅と併せれば 宮城県の中央部は地質調査所の5万分の1地質図でほぼカバーされたことになる。

仙台市は人口増加を続け 宅地造成などの土地改変が盛んに行われているが 北・西・南側に丘陵地が配置し 大都市の割には自然環境が良く残されている。仙台市のひとつのシンボルである太白山に登れば貫入岩の節理を観察できるし 環境庁の『名水百選』に選ばれた広瀬川を辿れば貝化石や材化石を発見できる。また伊達家の仙台北城にとって天然の要害の役割を果たした竜ノ口溪谷に入れば 最大高さ70mの連続露頭が迫り 地質断面をそのまま見る思いである。

「仙台」地域の地質図及び研究報告書は 地質研究者ばかりではなく 広く地質に関心を抱く人々に大いに参考となるであろう。



5万分の1地質図幅の新刊

仙台
SENDAI

5万分の1地質図幅 地域地質研究報告



著者 北村 信・石井武政・寒川 旭・中川久夫
 発行 工業技術院 地質調査所
 取扱先 東京地学協会 (03) 261-0809 262-1401
 そのほか全国主要書店
 販売価格 2,450円

地質ニュース	第383号	7月号
	定価 円 630	千 実費
昭和61年7月1日	発行	
編集	工業技術院地質調査所	
発行人	林 久 雄	
発行所	株式会社 実業公報社	
	東京都千代田区九段南4の2の12	
	〒102	
	Tel. (03)265-0951 (代表)	
	振替口座 東京1-32466	
総発売元	株式会社 実業公報社	
	出版事業部	